

かけはし

The Newsletter of The Faculty of Engineering,
Kumamoto University

編集・発行 熊本大学工学部広報委員会

工学部ホームページ <http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp>

2008/6 No.16

News & Topics

第3回環黄海産学官連携 大学総(学)長フォーラム

熊本大学は、日本側事務局校
兼開催校として2007年11月
26日及び27日に熊本市内のホテ
ルにおいて「第3回環黄海産学
官連携大学総(学)長フォーラ
ム」を実施しました。日本(九
州)、中国、韓国から合計34大
学1協議会(九州からは15大学)が
参加し、学長・副学長を始め
とした大学関係者が一同に会し、
大学での人材育成をテーマに分
科会(約110名参加)及び本会
議(約150名参加)で活発なブ
レゼンテーションと意見交換が
行われました。崎元学長は本会
議で、「アジアゲートウェイ構
想」を中心としてアジアにおけ
る我が国の国際戦略と、今回の
環黄海学長フォーラムで紹介さ

れた9大学の人材育成に関する
取り組み等を概観した後、アジ
アに軸足を置いたアカデミッ
ク・ハブとしての役割を担うべ
く熊本大学が目指す日中韓の人
材交流についての戦略的な取組
みについて発表しました。各大
学間においても今後更に協力関
係を発展させることで各学長の
同意を得ました。

本フォーラムは、黄海を囲む
日中韓三国の政府主導で同地域
の産学官連携促進を目的に
2001年発足した「環黄海経
済・技術交流会議」に2005
年から併設されたもので、日本
では初の開催となりました。次
回は2008年は韓国仁川市で開
催される予定です。



工学部優秀教育者表彰 (ティーチングアワード)

平成19年度授業改善・FD委員長 河原正泰

工学部では平成13年度より、
工学部優秀教育者表彰(ティー
チングアワード)を行っていま



す。これは学生に「良かったと
思われる授業」を投票させ、そ
の結果を基にして各学科から表
彰対象となる授業担当教員を選
出し、工学部として表彰するも
の。その目的は、教育に対
する教員の功労をたたえること
に加え、「相互触発型授業検討
会」を通して、優れた教育法に
ついての情報を他の教員に伝え
ることにより、全体的な教育の
質のレベルアップを計ることに
あります。優秀教育者の選出に
は、学生投票の結果を利用しま
すが、現段階では毎年投票形式を

少し変え、いい授業をしている
教員ができるだけ多く受賞で
きるように工夫しています。

平成19年度工学部ティーチングア
ワード受賞者(科目名)

- 物質生命化学科 井原敏博 准教授(分析化学第二)
- マテリアル工学科 森園靖浩 准教授(固体力学)
- 機械システム工学科 丸茂康男 教授(材料力学第二)
- 社会環境工学科 山尾敏孝 教授(構造物力学)
- 建築学科 両角光男 教授、大西康伸 助教、桂 英昭 准教授、田中智之 准教授(建築設計演習第四)
- 情報電気電子工学科 松永信智 准教授(制御工学第一)
- 宇佐川毅 教授(音響情報工学)

News & Topics

- 01 第3回環黄海産学官連携大学総(学)長フォーラムP1
- 02 工学部優秀教育者表彰(ティーチングアワード)P1

Feature Articles

- 03 熊本大学・熊本フォーラム2007P2
—「誇れる大学から憧れられる大学」を目指して—

Voice

熊本大学工学部・学科便り

- 04 建築学科「生きた教材」とともに学び・考え・つくるP3
- 05 物質生命化学科 学科の紹介P3

Events

- 06 第49回全国大学・高専卒業設計展示会P4
- 07 夏休みの自由研究に関する技術相談会P4
- 08 オープンキャンパス2008P4

Data Sheet

- 09 平成19年度進学・就職状況P4

熊本大学・熊本フォーラム2007

「誇れる大学から
憧れられる大学」を目指して

熊本フォーラム副実行委員長 里中 忍

熊本大学は本学の教育研究活動を広く社会に知っていただくと共に今後の充実・発展のための意見交換の場として、熊本大学フォーラムを開催してきました。

2003年から工学部が中心になって企画し、東京、関西、中国上海、韓国太田と毎年続けてきた熊本大学フォーラムは、2007年度には熊本城築城400年祭が行われている地元熊本で「熊本大学・熊本フォーラム2007」として開催しました。11月29日、30日の二日間にわた



特別講演の風景(株東レ名誉会長 前田勝之助氏)

る本フォーラムには、保護者、一般市民、行政機関、企業、海外の大学から250名以上の参加者があり、生産拠点として急速に発展する九州地域の将来を見据えながら、熊本大学のさらなる飛躍を期するフォーラムとなりました。

初日の29日は、熊本大学工学部百周年記念館を主会場として、キャンパスツアー、本学の教育活動紹介、学生の活動報告を行いました。午前中のキャンパスツアーでは、黒髪キャンパスの代表的な五つの施設・設備を選び、本学の歴史と最新の教育研究活動の一端に触れていただきました。県内外からの保護者、地域の皆さん、交流協定を結んでいる海外の大学関係者、企業関係者など80名以上の参加者があり、国指定重要文化財の五高記念館と工学部資料館、衝撃・極限環境研究センター、ものづくり創造融合工学教育センター、次世代耐熱マグネシウム合金コア研究室を見学していただきました。案内をした工学部の若手教員からは、皆さん説

明を熱心に聞き、質疑も活発で、大学を応援いただいていることが伝わってきたとのこととです。佐世保から参加された保護者の一人は、「息子に内緒で参加しました。熊本大学の歴史に触れ、また詳しくはわからないけれども先端の科学技術を感じることができ、非常にいいツアーでした。このような企画があったら、次の機会にも参加したいと思っています。」と感想を述べられていました。2時間の短いツアーでしたが、参加者には満足していただいたようです。午後の、特徴ある教育活動の紹介では、21世紀のものづくりの技術者やデザイナーを育てる「ものづくり創造融合工学教育事業」、社会人を対象とした大学院の「MOT教育」、環境教育である「みなまた環境マイスター養成プログラム」、大学院科学技術教育の全面英語化計画「グラシウス計画」、熊本大学と海外協定大学における「留学生の日本語教育の比

較」などが紹介されました。後半は、学生の様々な活動報告27件がありました。学生会・大学祭報告、長期・短期留学報告、国際会議参加・出席報告、国内外インターシップ報告、留学生の活動報告など、いずれも素晴らしい報告内容で、参加者には学生の活動を知っていただける良い機会になりました。工学部の学生も大活躍でした。

30日は、会場を熊本全日空ホテルニュースカイに移し、特別講演、21世紀COEを含む大学の研究活動紹介のあと、海外の大学からはこれからの国際交流の在り方、県内の行政機関や企業などの関連団体からは「大学に期待するもの」、「これからの産学官連携」についての提案がありました。特別講演では、工学部の第一期卒業生で、元(第一基の)総合科学技術会議の助氏が「わが国の科学技術政策と大学の役割」と題して、資源、エネルギー、食料輸入国のわが国が持続可能な社会を築くために必要な施策、科学技術創造立国には人材の育成が必要であることを各種データ、統計資料を使って説

キャンパスツアー(工学部資料館:「機械遺産」の説明)



「生きた教材」とともに 学び・考え・つくる

建築学科 准教授 田中智之

熊本城、上通・下通の商店街、黒髪住宅地：まちにある全てのものが建築を学ぶものにとつての「生きた教材」だといつても過言ではありません。建築学科では身の廻りにある環境を生かした教育・研究を日々行っています。

1年生はまず実際の建物に触れることで「建築の面白さ」を学びます。五月晴れのキャンパスにおける五高記念館のスケッチ、小国の木造建築群や九重の自然を学ぶ6月の合宿研修、またアートポリスのレポートでは最先端建築を訪れ、よく観察します。

2年生では身近なまちをよく知り、小さな建築を設計してみます。大学からほど近い立田自然公園の「四つ御廟」を実測し、白川近くの一夜塘に小さなトイレを設計。子飼橋の課題では地域の気候・風土・くらしについて考えながら住宅を設計します。

3年生になるともう少し視野を拡げ、まちと建築の関係について考えます。上通や古町地区を歩き、住民の話を聞き、いままちが抱える問題やこれから問題となることを考え、建築で何ができるのかを検討します。



孤風院に足場を増築した「窓湯プロジェクト」

そして4年では自分で敷地や課題を設定し、まちがさらに良くなるための建築や都市デザインとは何かを考え、卒業設計としてまとめるのです。

このように「生きた教材」とともに学び、考え、つくることを一貫して行っています。しかしこれは授業や研究室の活動に限ったことではなく、学生の自主活動もたいへん盛んです。

例えば「孤風院」の活動。これは本学旧講堂が1975年に阿蘇へ移築されたもので、約100才を迎える木造建築です。この建物を「継承」する活動が15年ほど行われており、他大の学生や地元専門家と精力的に活動しています。

近年では学生自主研究構想実践プロジェクトとして大学から助成を受け、足湯を増築する「窓湯プロジェクト」や漆喰壁を補修するなどの「劇場空間化プロジェクト」が行われました。発案・企画・設計・施工まですべて学生が自主的にを行い、実際の建築と「戯れながら」生き生きと建築を学んでいます。

学科の紹介

物質生命化学科 学科長 栗原清二

物質生命化学科には、学部生369名、大学院博士前期(修士)124名、大学院博士(後期)40名が在学しています。昨年度の学部4年生の進路は、35名が就職、56名が修士へ進学しました。最近の傾向として、企業は技術系採用におきまして、学部生よりも修士学生の採用に力を入れており、技術系の職種を目指す多くの学生は修士へ進学している状況です。

本学科では、化学を基礎として物質化学と生命化学を融合させ、生命工学的視点を意識した物質化学とその応用としての物質工学の教育・研究を通じて、急速に発展する新しい科学技術における物質化学や生命化学に関する諸問題の解決に能力を発揮できる優れた人材の育成を目指しています。また、21世紀は、環境の世紀と言われており、地球規模の環境保全が最重要課題の一つとなっています。本学

科では、環境意識の高い人材の育成を行うことを目的として、講義、実験を中心とした環境教育カリキュラムの充実を図っております。平成16年1月には、学科として環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得しております。本学科における環境ISOの特徴として、学生が内部監査委員を担当するなど、環境ISOの運営に参加していることが挙げられます。このような取り組みは全国的にも少なく、実践的環境教育として非常に高い評価を受けております。



平成16年に、「ISO14001」を認証取得しました。本学科は、環境意識の高い人材の育成を行なっています。

※ 第49回 全国大学・高専卒業設計展示会

全国の大学・高専から選りすぐられた卒業設計181作品を一堂に展示します。未来を見据えた都市



や建築に関する幅広い提案をご覧ください。奮ってご来場ください。

日時：平成20年6月4日(水)、5日(木)、6日(金)
9:00-17:00 (最終日16:00まで)

場所：工学部百周年記念館

対象：一般

参加：無料

主催：日本建築学会

共催：日本建築学会九州支部、
熊本大学工学部建築学科

お問い合わせ：096-342-3590 (担当：大西)

※ 中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会

今年で第6回目を迎える「夏休みの自由研究に関する技術相談会」が、8月2日、3日の両日に開催されます。昨年は時代を反映して“食品に含まれる添加物や着色料検査”、“水質浄化や微生物の働き”など環境に興味を持った中学生が参加されました。この相談会では“ものづくり”的なテーマでも相談を受け付けており、多くの中学生の皆さんに理科や技術に興味を持っていただきたいと願っております。

日時：平成20年8月2日(土)、3日(日)

場所：工学部百周年記念館、その他実験施設

対象：中学校1、2年生

参加：無料

主催：熊本大学工学部

共催：熊本電波工業高等専門学校

後援：熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

お問い合わせ：096-342-3879 (技術部 上村)

096-342-3014 (総務 小島)



※ オープンキャンパス2008

熊本大学工学部では、毎年8月に学部・学科の説明会や研究室公開を開催しています。教育・研究内容(どんなことをしているのか)について説明が聞けるほか、開放している研究室もあり、最先端の研究を体験することができます。

自分自身の肌で直接感じ、大学でやりたいことを探してみてください。

日時：平成20年8月5日(火) 9:30-15:10

場所：熊本大学黒髪キャンパス

対象：高校生から一般まで

(学部によっては高校生2年生以上のみを対象)

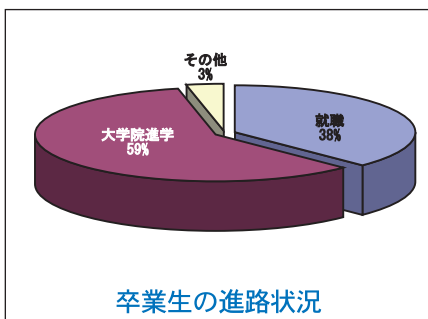
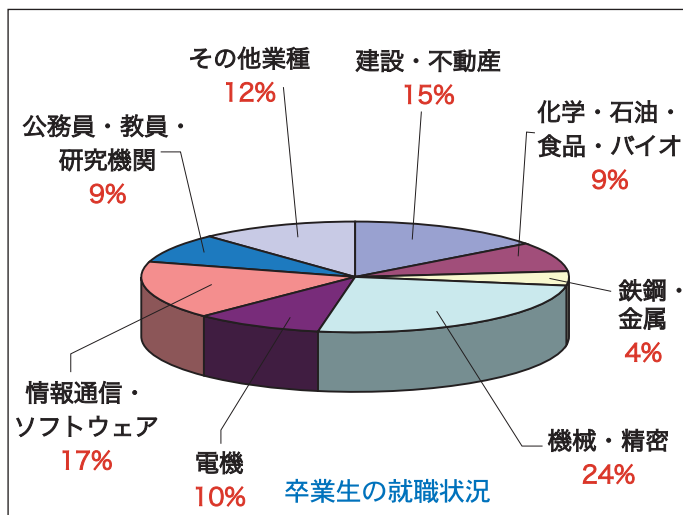
参加：無料

主催：熊本大学工学部

お問い合わせ：096-342-3522

(熊本大学工学系教務企画担当)

平成19年度工学部卒業生の進学・就職状況



編集委員会

内村圭一、伊田進太郎、宗像瑞恵、藤見俊夫、大西康伸、久我守弘、中村能久、新野靖、野口緑、松田光弘



熊本大学工学部から
イベントのお知らせ



09